

## 「神楽学」の魅力〜神楽歌・唱教の視点から〜

宮崎県立看護大学教授 大館 真晴

一、「神楽歌」・「唱教」とは 古典文学との関係性、  
舞手や太鼓方が唱える唱え言のこと。主に神楽の演目の由来や、神と神職の問答などが述べられる

※「神楽三十三番書上」(地割 神主荒神 両口) ※天保十年(1839)

御神楽三十三番併二番数歌迄不残相済候  
天保十歳 亥三月十一日書之  
延岡領高千穂三田井村  
十社大明神神主  
田尻撰津正  
押方村芝原門 佐吉郎  
其歳式拾五才

### 〔資料①〕「神楽三十三番書上」(第二番・伊勢神楽・天児屋根命)

一 抑天神七代、地神五代伊奘諾命、伊奘冉命、御子に日神、月神ひるこ、すさのおの命とて一女三男おわします。第一に日神と申奉るは事新しく申に及ず、あきつ嶋の惣びよ大日靈の命是なり、第二、月神と申奉るは月弓の命是なり、第三、ひるこの命と申奉るは西の宮の御神、是なり 第四にすさのおの命と申奉るは出雲の国大社はなり

一 すさのおの命のたまはく、鹿色かぞいろのさずけ給ふ姉のあまてらしまし給ふ、月弓の命には青うな原をしらしめ給ふ ひるこの命は三歳になるも足立たずして天の岩くす舟にのせ風の間さまに流し給ふ、すでに津の国の海べにあとをたれ給ふ すさのおの命には根の国そこの葦原中津国をたまはるゆえ、今日本の地の主になり給ふ

一 然るに天照大神宮は国の主となり給ふ、不しんなるにおぼしめし大和の国宇都郡うのの里とゆ所に集りて、矢つるきを作りすでに大神宮をしたがえんとしたもう御時、大神宮は早無事をきこしめし、せんげんのうらみ事おろかとおぼしめし、天の岩屋に奥ふかくとごこもらせ給えば大日本は無明のやみとなり給ふ……

【資料②】『日本書紀』卷一・第五段（本書）

既にして伊奘諾尊・伊奘冉尊、共に議りて曰はく、「吾已に大八洲国及び山川草木を生めり。何ぞ天下の王者を生まざらむ」とのたまふ。是に、共に日の神を生みまつります。大日靈貴と号す。」…一書に云はく、天照大神といふ…此の子、光華明彩しくして、六合

の内に照り徹る。故、二の神喜びて曰はく、「吾が息多ありと雖も、未だ若此靈に異しき児有らず。久しく此の国に留めまつるべからず。自から当に早に天に送りて、授くるに天上の事を以てすべし」とのたまふ。是の時に、天地、相去ること未だ遠からず。故、天柱を以て、天上に挙ぐ。次に月の神を生みまつります。」二書に云はく、月

尊、月夜尊、月読尊といふ。其の光彩しきこと、日に垂げり。以て日に配べて治すべし。故、

亦天に送りまつる。次に蛭児を生む。已に三歳になるまで、脚猶し立たず。故、天磐櫛樟に載せて、風の順に放ち棄つ。次に素戔嗚尊を生みまつります。」二書に云はく、神素戔嗚尊、

速素戔嗚尊といふ。此の神、勇悍くして安忍なること有り。且常に哭き泣つるを以て行とす。故、国内の人民をして、多に以て夭折なしむ。復使（また）、青山を枯に變す。故、其の父母の二の神、素戔嗚尊に勅したまはく、「汝、甚だ無道し。以て宇宙に君臨たるべからず。固に当に遠く根国に適ね」とのたまひて、遂に逐ひき。

【資料③】『日本書紀』卷一・第七段（本書）

是の後に、素戔嗚尊の為行、甚だ無状し。何ならば、天照大神、天狭田・長田を以て御田としたまふ。時に素戔嗚尊、春は重播種子し、且畔毀す。秋は天斑駒を放ちて、田の中に伏す。復、天照大神の新嘗めす時を見て、則ち陰に新宮に放尿る。又、天照大神の、方に神衣を織りつつ、斎服殿に居しますを見て、則ち天斑駒を剥ぎて、殿の甕を穿ちて投げ納る。是の時に天照大神、驚動きたまひて、梭を

以て身を傷ましむ。此に由りて、発惱りまして、乃ち天石窟に入りまして、磐戸を閉して幽り居しぬ。故、六合の内、常闇にして、昼夜の相代も知らず。

【資料④】『太平記』巻二十五（伊勢より宝剣を奉る事）

ひのさきのだいなこんすけあきら

（日野前大納言資明卿は）神代の事については日本記の家（日本書紀を研究している

家）が詳しいので、よく聞いてみようと考え、平野神社の神主、神祇の大副兼員

たいふかねかず

（下部兼員…下部兼方の孫）をお呼びになりました。…後略…

うらべかねかず うらべかねかた

【資料⑤】『太平記』巻二十五（伊勢より宝剣を奉る事）

（イザナキノミコトとイザナミノミコトは）このように夫婦として結ばれた結果、四神をお産みになりました。日神、月神、蛭子、素盞鳥尊がそうです。日神と言うのは天照大神で、太陽の神が地上に神となって現れたものです。月神と言うのは月読の明神のことです。この神は姿があまりにも美しく、人とは違うようなので、両親のお計らいで天に昇らせました。また蛭子と言うのは現在の西宮神社の大明神でございます。

【資料⑥】『太平記』巻二十五（伊勢より宝剣を奉る事）

天照大神はこの国の主となりました。この時、素盞鳥尊は主となって国を手に入れようとして軍を起こし、群がり騒ぐ一千の悪神らを率いて、大和国の宇多野に、一千本の剣を地面に立てて城郭となし、たて籠りました。天照大神は好ましくないことだと思いに、八百万の神たちを率いて、葛城にある天の岩戸に閉じ籠りましたので、国中が真つ暗闇となって、日月の光が見えなくなりました。

二、歌の持つ機能について

【資料⑦】「神楽三十三番書上」（地割）

○神主

谷が八つ 峯が九つ 戸が一つ 鬼の住むとは 蘭の里

【資料⑧】「神楽之濫觴」（地割 神主荒神）※奥書に「文化七年庚午年…」（1810）

御毛入命の御神楽と伝えたる

谷は八つ峯は九つ戸は一つ鬼のすみかは阿良々ぎの里

此の御歌によりて、鬼のにげいでたるよし、語り伝えたり。阿良らぎの里に いひ加り玉える、いと良く聞えて目出度き神楽詠也。